

第一章 幼年期

プロローグ

俺は三十四歳住所不定無職。

人生を後悔している真っ最中の小太りブサメンのナイスガイだ。

つい三時間ほど前までは住所不定ではない、ただの引きこもりベテランニートだった。だが、気づいたら親が死んでいた。

引きこもっていた俺は、葬式はもちろん、親族会議にも出席しなかった。

結果、見事に家を追い出されることとなった。

床ドンと壁ドンをマスターし、家で傍若無人に振る舞っていた俺に味方はいなかった。

葬式当日、ブリッヂオ○ニー中にいきなり喪服姿の兄弟姉妹たちに部屋に乱入され、絶縁状を突きつけられた。

無視すると、命よりも大切なパソコンを弟が木製バットで破壊しやがった。

半狂乱で暴れてみたものの、兄は空手の有段者で、逆にこっちがぼっこにされた。

無様に泣きじゃくって事なきをえようとしたら、着の身着のまま家から叩き出された。

ズキズキと痛む脇腹（多分肋骨が折れてる）を押さえながら、とぼとぼと町を歩く。

家を後にした時の、兄弟たちの罵詈雑言が未だ耳に残っている。

聞くに堪えない暴言だ。

心は完璧に折れていた。

俺が一体なにをしたっていうんだ。

親の葬式をブッチして無修正ロリ画像でオ○ってただけじゃないか……。

これからどうしよう。

いや、頭ではわかっている。

バイトか定職を探して、住む場所を見つけて、食べ物を買うのだ。

どうやって？

仕事を探す方法がわからない。

いや、なんとなくだが、ハロワにいけばいいということとはわかる。

だが、伊達に十年以上引きこもっていたわけじゃない。ハロワの場所なんかわかるわけもないし、それにハロワに行っても仕事を紹介されるだけだと聞いたことがある。